



2022年
12月7日
No.A22-08

中東調査会は個人及び法人会員の賛助会費により運営されている非営利の公益財団法人です

中東調査会月間活動誌 (2022年11月)

1. 中東調査会主催の行事

(1) トップ・ミーティング

・11月30日(水)、高原明生 東京大学公共政策大学院院長、大学院法学政治学研究科教授「中国共産党第20回全国代表大会の開催と今後の中国」(於：オークラ東京)



<要旨>

講師より、10月に行われた共産党第20回党大会で決定された人事から、習近平体制の権力構造の特徴、安定度、体制維持のリスクについて分析がなされた。外交では、ウクライナ危機に見られる中国外交のプラグマティズムや、日中関係の中国側の基本認識について説明があった。ゼロ・コロナ政策に対する最近の抗議デモが習近平体制に及ぼす影響や、中台関係の緊張が軍事化する可能性についても言及があった。

(2) 中東情勢オンライン講演会

・11月11日(金)、高橋克彦 駐マレーシア大使「東南アジアにおけるイスラーム(マレーシアでの経験を中心に)」(Zoom形式)

<要旨>

大使より、東南アジアにおけるイスラームの

歴史や地理的広がりを概観した上で、マレーシア政治・経済・社会・外交におけるイスラームの位置づけや役割について、中東諸国との共通点や相違点にも言及しつつ、詳しく説明がなされた。



・11月18日(金)、水嶋光一 駐イスラエル大使「イスラエルの現状と今後の展望」(Zoom形式)

<要旨>

大使より、特に11月1日の議会選挙による今後の影響に焦点を当てて説明がなされた。具体的には、宗教右派の躍進を踏まえた新政権の方向性、アブラハム合意を経て積極化した地域外交、レバノン・シリアと連動したイランへの警戒、米露中といった域外大国との関係につき、現状と展望が述べられた。またパレスチナ問題、コロナ禍からの経済回復、日本との関係についても現状が詳細に述べられた。

2. 中東調査会の活動

(1) 中東トピックスの発行【会員限定】

・2022年11月号(2022年12月7日付)

1. サウジアラビア：ムハンマド皇太子のアジア歴訪
2. トルコ：ロシア・ウクライナが黒海穀物輸出の延長で合意
3. イラン：ロシアへの国産ドローン供与を一部認める
4. エジプト：トルコと二度目の関係改善の兆しか
5. アルジェリア：2023年の国防予算が前年比で倍増
6. アフガニスタン：ターリバーンがムッラー・ウマルの墓を公開

※内容はホームページをご参照ください。

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/topics/)

(2) 中東分析レポートの発行 【会員限定】

- No.10「ウクライナ危機と北アフリカからのエネルギー供給の可能性——西サハラ問題とリビア紛争の影響——」(11月11日)
- No.11「国際イベント招致に見る内外のポリテイクス ——「有終の美」を見据えるサウジ・ビジョン2030——」(11月18日)

※内容はホームページをご参照ください

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/report/)

(3) イスラーム過激派モニターの発行【会員限定】

- No.14「アラビア半島のアル=カーイダがカタールでのW杯開催を非難する声明を発出」(11月21日)
- No.15「フランスの「バルカン」作戦終了とサヘル地域の過激派動向」(11月25日)

※内容はホームページをご参照ください。

(https://www.meij.or.jp/trend_analysis/monitor/)

(4) 中東かわら版の発行

No.110「レバノン：アウン大統領の任期満了と

大統領位の空席」(上席研究員 金谷美紗、11月1日)

No.111「イラク：スーダーニー内閣の発足」(研究員 高尾賢一郎、11月1日)

No.112「イスラエル：第25回国会(クネセト)選挙の結果」(上席研究員 金谷美紗、11月4日)

No.113「バハレーン：ローマ教皇による初のバハレーン訪問」(研究員 高尾賢一郎、11月4日)

No.114「トルコ：ロシアが黒海穀物輸出の無期限停止宣言から方針転換」(研究員 金子真夕、11月8日)

No.115「エジプト：COP27開催中に人権問題が浮上」(上席研究員 金谷美紗、11月11日)

No.116「トルコ：イスタンブール繁華街での爆発で多数の死傷者」(研究員 金子真夕、11月15日)

No.117「アルジェリア：国内初のロシアとの軍事演習」(研究員 高橋雅英、11月18日)

No.118「アフガニスタン：ロシアが国際会議を主催、ターリバーンは招待されず」(研究員 青木健太、11月18日)

No.119「イラン：国際原子力機関(IAEA)が非難決議を採択」(研究員 青木健太、11月18日)

No.120「エジプト：COP27閉幕、「シャルム・シェイクフ実行計画」の採択」(上席研究員 金谷美紗、11月21日)

No.121「カタール：中東初開催となるW杯の開幕とその意味」(研究員 高尾賢一郎、11月22日)

No.122「トルコ：シリア・イラク北部での空爆実施と地上軍派遣を示唆」(研究員 金子真夕、11月24日)

No.123「イスラエル：エルサレムのバス停で2回の爆発事件」(上席研究員 金谷美紗、11月24日)

No.124「シリア：トルコ軍がシリア北部を攻撃、
その考えられうる影響」(上席研究員 金谷美
紗、11月25日)

(<https://www.meij.or.jp/kawara/>)

(5) その他の活動

・東京外国語大学が開講する単位認定科目「国
際社会をひもとく B/中東諸国の紛争と平和」
へ当会研究員が出講した。

- ① 「9.11 と中東 (1)：アメリカの介入とアフ
ガニスタン紛争」研究員 青木健太、11月2
日)
- ② 「9.11 と中東 (2)：ターリバーン復権とロー
カル・オーナーシップ」(研究員 青木健太、
11月9日)
- ③ 「湾岸諸国の安全保障(1)：湾岸地域の誕生」
(研究員 高尾賢一郎、11月16日)
- ④ 「湾岸諸国の安全保障(2)：湾岸諸国とイス
ラーム主義」(研究員 高尾賢一郎、11月30
日)

・11月4日(金)、青木研究員がお茶の水女子
大学主催のアフガニスタン女子教育支援 20
周年記念公開シンポジウム「紛争地域の女子
教育支援を通じた国際協力活動のあり方」に
出講した(演題：「アフガニスタンにおける統
治の困難さ」)。

・11月10日(木)、英ロンドン大学東洋アフリ
カ研究学院のセイエド・アリー・アラウィー
講師と同志社大学の中西久枝教授が来訪し、
当調査会の研究員らと意見交換を行った。



3.12月の予定

- ・12月6日(火)、14:00~15:30、第26回中東
情勢分析発表会(研究員 高尾賢一郎「サウジ
アラビア内外政：ウラー宣言を経た地域外交
の展開と「有終の美」を見据えるビジョン
2030」、研究員 青木健太「イラン抗議デモの
背景と展望：ライシー政権が直面する試練
と大きな変化を見せるイラン社会」)
- ・12月7日(水)、8:30~10:00、於：オークラ
東京プレステージタワー7階「メイプル」、ト
ップ・ミーティング(木内 登英 野村総合研
究所エグゼクティブ・エコノミスト(「2023年
の日本経済の展望」) ***法人会員限定**)
- ・12月12日(月)、14:00~15:30、中東情勢オ
ンライン講演会(溝渕 正季 広島大学大学院
准教授「関与か撤退か：岐路に立つ米国の対
中東政策」)

※やむを得ない事情により、日時や会場が変更
になることもございますのでご了承ください。
また、この他にもイベントを開催するこ
ともございます。詳細等と併せまして、配信
メールやHPをご参照ください。

(<https://www.meij.or.jp/event/>)

*会員の皆様は、どなたでも会員限定ページをご覧になれます。

*ログインに必要なIDとパスワードは、御社の当会担当窓口にお問い合わせください。